

苫小牧市
市長 岩倉 博文 様

要保護女性・児童支援施設設置の要請について

私たちの暮らしは、社会の多様化、地域生活の環境の変化は人々の生き方の対応にとまどいを感じている昨今です。

2月7日には国連に於いて、日本国に於いて人権（命）を守ることの大切さを提言されました。

それを受け2月8日には、日本では閣議を開き全国の児相・学校・教育委員会に今心配のある児童などの確認指令を出しました。非常に深刻なことです。

今年の要望事項

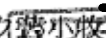
- ① DV＝児童虐待の観点から、被害者たちの支援のためのシェルターから生活支援という必要性は不可欠である。苫小牧市として、支援体制の施設が不足と見受けられます。
DVを受けた方の中には男性依存という形、又社会に順応できない被害者も少なくありません。③
- ② DV・児童虐待に対しての加害者たちについては昨年も触れましたが、加害者に対する支援体制は急務であると思います。
- ③ 昨年の「語る会」では社会に順応できない方々への支援を家庭訪問等で対策をしていると話されましたが、昨年の12月議会での桜田部長さんの答弁では温度差を感じました。
- ④ 1月25日におきまして千葉県に於ける児童問題は遠い街のことではなく、当市に於いても育児放棄という痛ましい事例等がありました。
- ⑤ 私たちは活動の中で「研修（知識）＋意識＋実践」の循環型を目指して活動しておりますが、此の内度の内容は、大人たちの知識があっても、意識改革の欠落のなにもものでもありません。大変残念なことでした。
- ⑥ 昨年児相の分煙が決定されました。私たちが声を上げて17年の歳月が流れました。この分室が、被害者、加害者に力となることを望みます。
以上の内容から施設の設置を要請いたします。

その他① に於いて、各種資格を取得できる専門学校の新設

今ある学校の利用など、人手不足・就職率アップにつながる

- ② 模擬女性会議の開催について（11月頃）

平成31年2月18日

平等社会を推進するネットワーク 

会長 高橋 雅子 